

第6回ユニバーサルスポーツ交流大会

▼問合せ 播磨町障害児・者スポーツ振興協議会

(事務局 福祉グループ)

☎079 (435) 2361

▼日時 3月25日(日) 午前10時～正午

▼場所 総合体育館

播磨町障害児・者スポーツ振興協議会は、障がい児・者のスポーツに関する普及・啓発を行っています。

子どもから大人まで、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じて地域交流を図るユニバーサルスポーツ交流大会を開催します。

パラリンピック正式種目のシッティングバレーをチーム「兵庫LSC」の選手に皆さんに実演してもらつほか、各種スポーツ体験を楽しみましょう。参加費無料です。ぜひご参加ください。



▼持ち物 体育館シューズ、タオル、飲み物、着替え
▼開催種目 はりま☆土器ドキ★ダンス、シッティングバレー、フライングディスク、ポッチャ、パン食い競争
※パラリンピック種目のパネル展示と、「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」の小型家電回収BOXの設置もあります。(P9参照)

ユニバーサルスポーツ交流大会会場で小型家電を回収します

▼問合せ すこやか環境グループ ☎079 (435) 2721

小型家電から回収されたりサイクル金属を2020年東京オリンピックピックのメダルに活用するといふ取り組みが開始されました。東京2020組織委員会が主催するこの取り組みに播磨町も参加しています。



3月25日に開催するユニバーサルスポーツ交流大会会場に小型家電の回収ボックスを設置します。不要な小型家電がありましたらお持ちください。
▼日時 3月25日(日) 午前10時～正午
▼場所 総合体育館 パラリンピック種目パネル展示横
▼回収品目 デジタルカメラ、携帯電話、電卓、電子辞書、ゲーム機、DVDレコーダーなど(縦横20cm×33cm以下のもの)
※個人情報自己責任で必ず削除してください。
※詳しくは回収ボックスに記載している注意事項をご確認ください。

乾電池の分別収集にご協力をお願いします

▼問合せ すこやか環境グループ ☎079 (435) 2721

「水銀に関する水俣条約」の採択や、「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」の成立を受け、水銀を含んだ廃棄物の適正な処理を行うため、平成30年4月から、ご家庭で不要になった乾電池類について分別収集を始めます。

▶概要 水銀は蛍光灯や水銀体温計、一部の海外製電池やボタン電池など、私たちの暮らしの中で広く使われています。しかし、水銀は有害な物質であり、環境に排出されると健康被害や環境汚染をもたらすおそれがあります。

播磨町では、水銀による汚染を防止するため、廃棄の段階において水銀を含む廃棄物を適正に収集することを目的に、乾電池類についても分別収集を始めます
▶対象物 乾電池・ボタン電池・小型充電式電池(ニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池)は除く

▶収集日 山陽新幹線南地区 第1水曜日
山陽新幹線北地区 第2水曜日

▶捨て方の注意点
・電池同士が接触した際にショートし、発火、出火するおそれがあるため、セロテープやビニールテープなどで電池の電極を覆って絶縁してください
・散乱防止のため・透明または半透明の袋(中身が確認できる色の袋)に電池を入れ、袋の口を結んでください
・収集日に、蛍光灯の回収箱(青いカゴ)へ電池を袋ごと捨ててください。捨てる際、回収箱に入っている蛍光灯を割らないように注意してください

年金

ご存じですか？国民年金の任意加入制度

▼問合せ 保険年金グループ ☎079 (435) 2581
加古川年金事務所 ☎079 (427) 4743

老齢基礎年金(65歳から受けられる年金)は、20歳から60歳になるまでの40年間保険料を納めなければ、満額の年金を受け取ることができません。

国民年金に任意加入して保険料を納めることにより、満額に近づけることができます。ただし、遡って申し込むことはできません。

国民年金に任意加入するまで任意加入することができます。また、海外に在住する日本国籍を持つ人も、国民年金に任意加入することができます。詳しくは、加古川年金事務所または保険年金グループにお問い合わせください。

広がれ 心のバリアフリー

～ユニバーサル社会を目指して～ 連載⑧

松原 和彦さん

私は進行性筋ジストロフィーという重度の難病を患っていて、歩くことが出来ません。

そのため電動車椅子を使用して生活しています。電動車椅子は私の足です。物心がついた頃からスポーツなんか出来ないと思っていて、諦めていました。

そんな時に電動車椅子サッカーというスポーツに出会いました。見学に行くと、私と同じように電動車椅子を使用している重度の障害を持つ選手たちが生き生きとプレーしていました。その姿を見た瞬間、私もプレーしてみたくなり、兵庫県内のチーム(兵庫パープルスネークス)に所属し、活動することになりました。実際にプレーしてみると、コートの中を自由に動き回り、ドリブルやパス、シュートなどいろんなプレーが出来ることやチームプレーにやりがいを感じ、すぐに虜になってしまいました。今では生活の一部になっています。また年に一度、全国大会も行われていて、全国各地から多くの選手やボランティアが集まって互いに協力し合いながら大会を運営しています。

そこでは障がいのあるなしに関わらず、互いに対等な関係でコミュニケーションを取ることが出来、障がいがあることを感じることはありません。

それは互いに言いたいことが言えたり、困ったときは遠慮をすることなく助けを求めたり出来る関係が築けているからだと思います。

日常においても、そのような関係を築いていけるように障がいのあるなしに関わらず、気軽に話しかけたり、互いを理解しあったり、また、協力しあっていければ、もっと暮らしやすくなっていくのではないかと思います。



第8回は、肢体障がいのある松原さんの思いを寄稿していただきました。障がいの有無に関わらず、互いに対等な関係でコミュニケーションを取り、言いたいことが言え、困ったときは互いに遠慮することなく助け合えるような環境こそが「バリアフリー」なのではないでしょうか。松原さんはスポーツを通じて関係を築かれました。きっかけは人それぞれだと思います。日ごろから、お互いのことを思い、理解し助け合う中で、もっと暮らしやすいまちにしていけるとよいですね。

「バリアフリー」とは…障がいのあるなしや年齢などに関わらず、社会生活をするうえで、物理的な障壁のみならず、社会的、心理的な障壁を取り除いていくこと。

▶問合せ 福祉グループ ☎079 (435) 2361 Eメール fukusi@town.harima.lg.jp

兵庫パープルスネークス公式サイト <http://www.bb.banban.jp/matsu/>